湖東定住自立圏（彦根市と愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町との広域連携）の具体的な取り組み

コンピューターシステムの共同利用や共同開発等の取り組みをすすめています

湖東圏域では、現在、各市町において同様の事務処理等を行うもののそれぞれ個別に運用しているコンピューターシステム（以下、システム）について、今後開発予定のシステムも含め、経費の削減、事務の効率化等の観点から、共同利用についてや共同開発について取り組んでいます。

●今年度の取り組み

システムの共同利用や共同開発等に係る取り組みとして、各市町で運用するシステムのうち、共同運用可能な業務と効率化が図れる業務などの検討を行った結果、災害情報などのメール配信システム（愛荘町は既存システム更新時から）と共通事務支援システム（グループウェアシステム）を共同利用していきます。

●今後の取り組み

今後、上記で決定したシステムは、調達方法や運用方法など、具体的な検討を行っていきます。

その他の共同運用ができるシステムも引き続き検討を進めていきます。

問い合わせ先　㊐情報政策課☎30-6104番、FAX22-1398番

職員の人材育成・職員交流の取り組みをすすめています

彦根市と4町の職員の資質・能力の向上のため、合同研修や業務を通じた交流に取り組んでいます。

まず、合同研修は、昨年に引き続き、職員の能力向上と相互啓発を図るため、「政策形成能力養成研修」を実施しました。これは、6か月にわたる長期研修で、1市4町の係長級職員を中心とした25人が5グループに分かれ、滋賀県立大学の森川准教授と上田研究員からの指導のもと、湖東圏域における行政課題に対応した具体的な政策提言を行うものです。

また、コンプライアンス（法令遵守）をテーマとした管理職職員研修も実施し、管理能力の向上を図りました。

このほか、建築物工事完了検査業務や行政評価業務などにおいて、職員の相互派遣や職員交流を行うことにより、各市町における業務に関する先進的な技術、手続き、取り組みなどを相互に習得する機会も設けています。

今後も、職員の資質向上に向け、より効果が期待できる手法を検討しながら、1市4町で連携した取り組みを進めます。

問い合わせ先　㊐人事課☎30-6106番、FAX22-1398番

彦根・安土・長浜3博物館連携講座「第3回　武家の美意識」

武器と茶道具、信仰の対象である仏像・神像を通じて、武家の美意識を探ります。

講座

第1講「湖北の鍛冶（かじ）たち～下坂槍（しもさかやり）と草野槍（くさのやり）～」森岡榮一（えいいち）さん（長浜城歴史博物館学芸員）

第2講「武将の信仰と造像～軍神を中心に～」山下立（りつ）さん（滋賀県立安土城考古博物館学芸員）

第3講「武家の茶～井伊家と石州（せきしゅう）流を中心に～」奥田昌子（あきこ）（彦根城博物館学芸員）

日時　3月17日㈯　午後1時～同4時30分（開場　午後0時30分～）

場所　彦根城博物館　講堂（金亀町）

費用　300円（資料代）

問い合わせ先　彦根城博物館☎22-6100番、FAX22-6520番

※事前申込は不要です。

わたしたちの「美しいひこね創造活動」

資源回収でエコを身近に

彦根幼稚園PTA

私たちは、園に通う子どもたちの活動支援と、保護者や地域との交流を深めていくため、子育てについての勉強会や園内の新聞作成、バザーなどを行っています。今回は、年4回実施している資源回収を中心にご紹介します。

資源回収活動では、ダンボールや新聞、雑誌などの古紙を回収しています。回収した資源の積み込みは、役員だけでなく保護者みんなで力を合わせて行っています。また、近くの事業所などからも資源を出していただくなど、地域の皆さんにも協力していただいています。

このほかにも、アルミ缶や牛乳パックを随時集め、日頃から低炭素社会づくりに努めています。環境に配慮する保護者の姿が、子どもたちの環境を大切にする行動につながることを願っています。

PTAが関わる美しい行為としては、資源回収のほかにも、幼稚園の保護者向けに「防犯パトロール」のプレートを配布し、各自で自転車に取り付けることにより、地域の安全にも努めています。

また、年4回の幼稚園の清掃活動では、園の周辺地域も含めた清掃を行っています。

今後も、子どもたちのよりよい成長につながる活動を幅広く行っていきたいと考えています。

美しいひこね創造活動

1. まちの美観を保つ活動
2. 地域安全活動
3. 助け合い活動
4. 低炭素社会づくり活動
5. 健康増進活動

問い合わせ先　㊐まちづくり推進室☎30-6117、FAX22-1398
Eメール：machizukuri@ma.city.hikone.shiga.jp

※このコーナーに登場する団体・グループを募集しています。詳しくは、㊐まちづくり推進室までお問い合わせください。

Brasilへようこそ!

第30回　「乾パン」「非常食」って何ですか

言葉には、説明がないと分かりにくいものがいくつかあるかと思います。

まず、医療用語や行政用語などの専門用語。これは、どこの国、どの言語でも同じだと思います。

次に、文化や習慣、環境などに伴う言葉です。

例えば、地震や台風などの自然災害が少ないブラジルでは、「それに対して備えておかなければいけない」と考えることもあまりありません。

私は、ブラジルで日本語を約10年間勉強し、家では日本語を話していました。「地震」という言葉も学びましたが、それに対応するための準備や地震が起きたときの行動については聞いたことがありませんでした。

日本では当然のように「避難場所」が指定されていますが、いくら日本語が堪能（たんのう）な人であっても、初めて来日する人にとっては、それが何を意味する言葉なのかすぐには分かりません。

また、国際交流員として日本に来て、防災マップを翻訳したり防災についての説明会に参加したりしたとき、私は生まれて初めて「乾パン」「非常食」といった言葉を目にし、耳にしました。

実際見たこともなかったので、どんなものなのか想像もつきませんでした。

説明会で、スーパーなどで販売していると聞き、探してみたら置いてありました。ブラジルにはないものなので、それまでは気づかずに通り過ぎていたのです。

このような場合、言葉だけを訳しても、それがどのようなものか、どう使うのかまで説明しないと相手に伝わりません。

翻訳することを通して、常識だと思っていることが文化や習慣、環境が異なると常識ではないのだということに気づかされました。

【彦根市国際交流員　平田エジナ】